

農林水産業振興
基本計画とは

農林水産業を
取り巻く情勢

本市農林水産業における
概要及び現状と課題

計画の基本的視点

施策の体系

基本方針

計画の推進

資料編

資料編

1 意向調査結果

意向調査結果の概要

本計画を策定するに際して、市民・農林水産業者の農林水産業・農山漁村に対する意向を把握することを目的で、意向調査を実施しました。

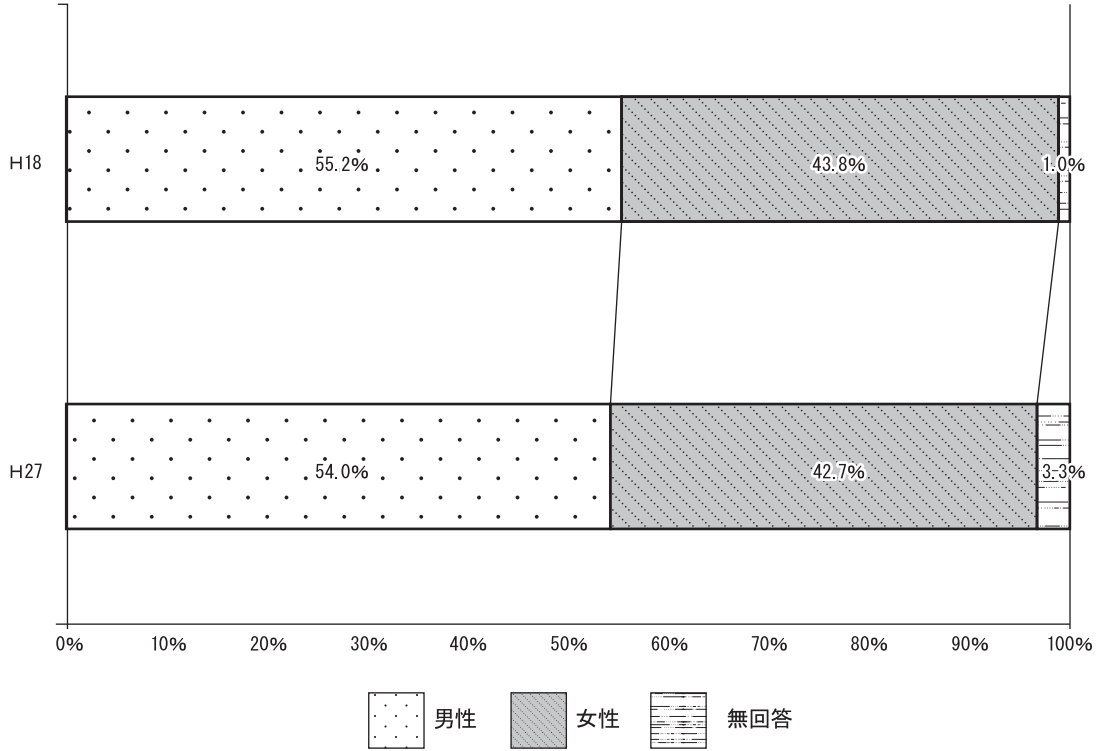
それぞれの意向調査の概要は次のとおりです。

| | 市民 | 農業者 | 森林所有者 | 漁業者 | |
|------|-------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|
| | | | | 内水面 | 海面 |
| 調査対象 | 20～85歳の中で、居住地域ごとに無作為抽出 | 大分県農業協同組合の大分事業部、由布事業部（野津原）、臼杵事業部（さかのせき、神崎）管内の正組合員 | おおいた森林組合、臼津関森林組合の組合員の中から無作為抽出 | 大分市在住の大分県漁業協同組合大分支店、神崎取次店、佐賀関支店の組合員 | 大分市在住の大分川漁協、鶴崎漁協、大野川漁協の組合員 |
| 調査期間 | 平成27年9月14日から平成27年10月31日 | | | | |
| 調査方法 | 郵送 | 農協より配布 | 郵送 | 郵送 | 郵送 |
| 発送数 | 3,000 | 8,408 | 976 | 1,036 | 787 |
| 回収数 | 1,250 | 1,170 | 460 | 499 | 346 |
| 回収率 | 41.7% | 13.9% | 47.1% | 48.2% | 44.0% |

市民意向調査結果

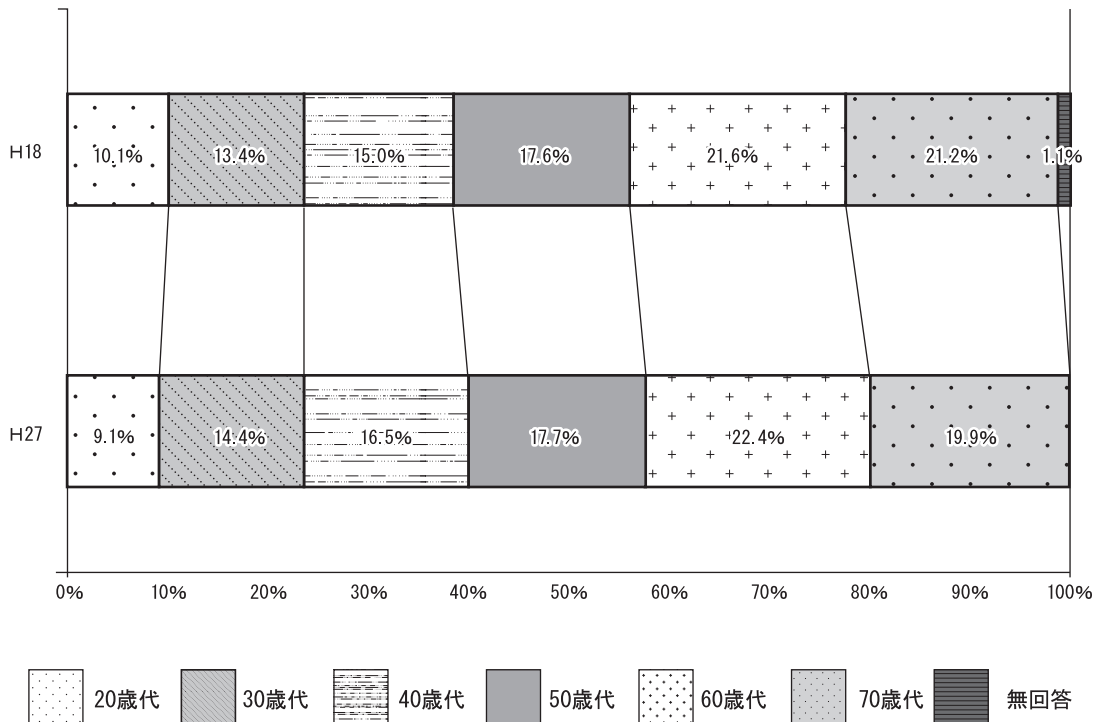
【性別】

前回とほぼ同様の傾向がみられる。



【年齢】

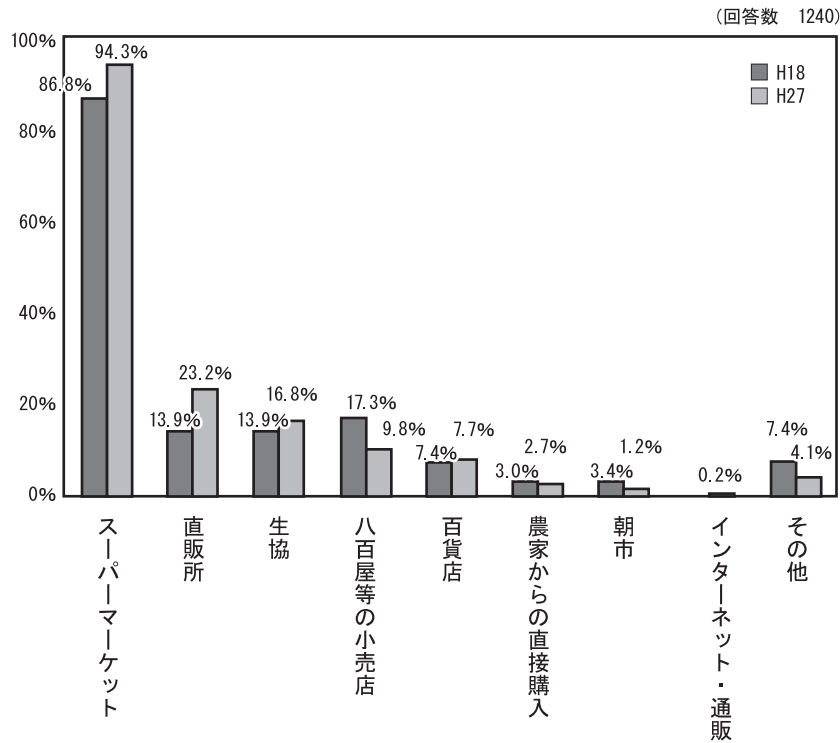
前回とほぼ同様の傾向がみられる。



農業のことについて

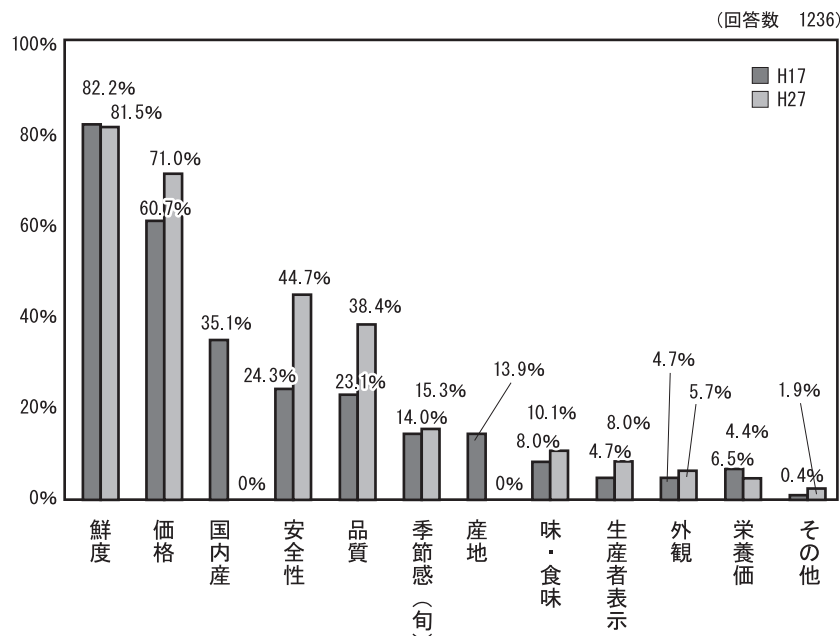
【野菜・果物の購入】

前回2番目の「八百屋等の小売店」が約8ポイント減少し、今回4番目に、前回3番目の「直販所」が約9ポイント増加し、今回2番目となっている。



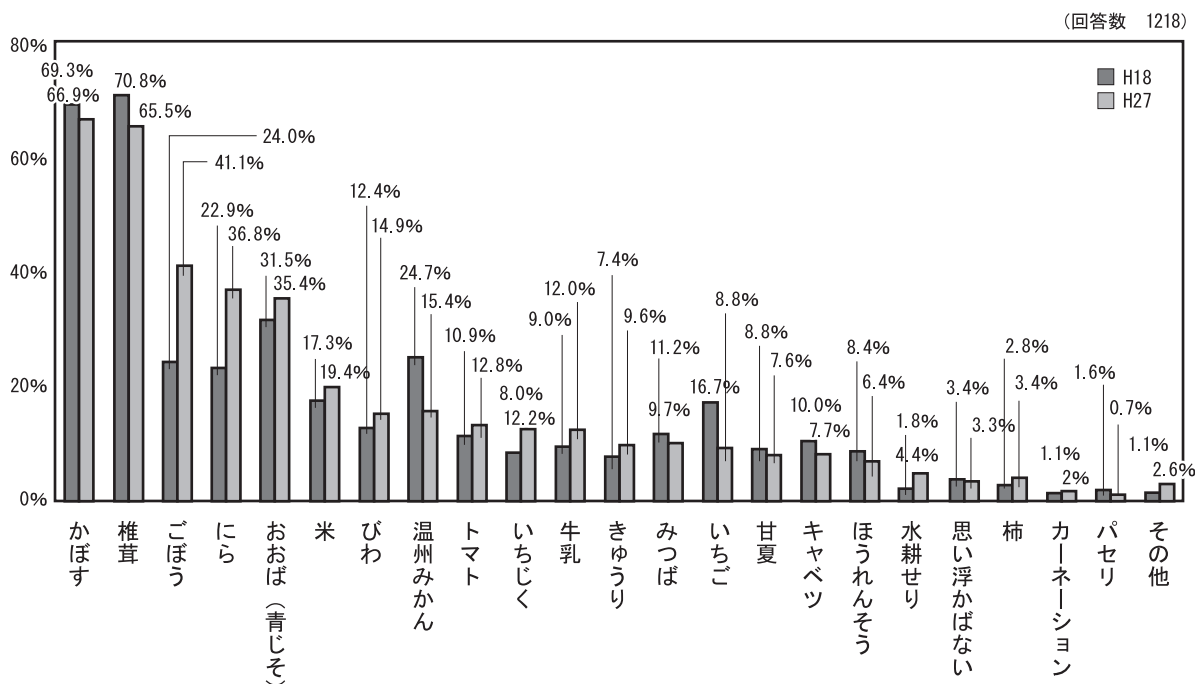
【野菜・果物の購入時に重視する点】

前回と比較して、「価格」が約10ポイント、「安全性」が約20ポイント、「品質」が約15ポイント増加している。(今回「国内産」「産地」の項目から除外)



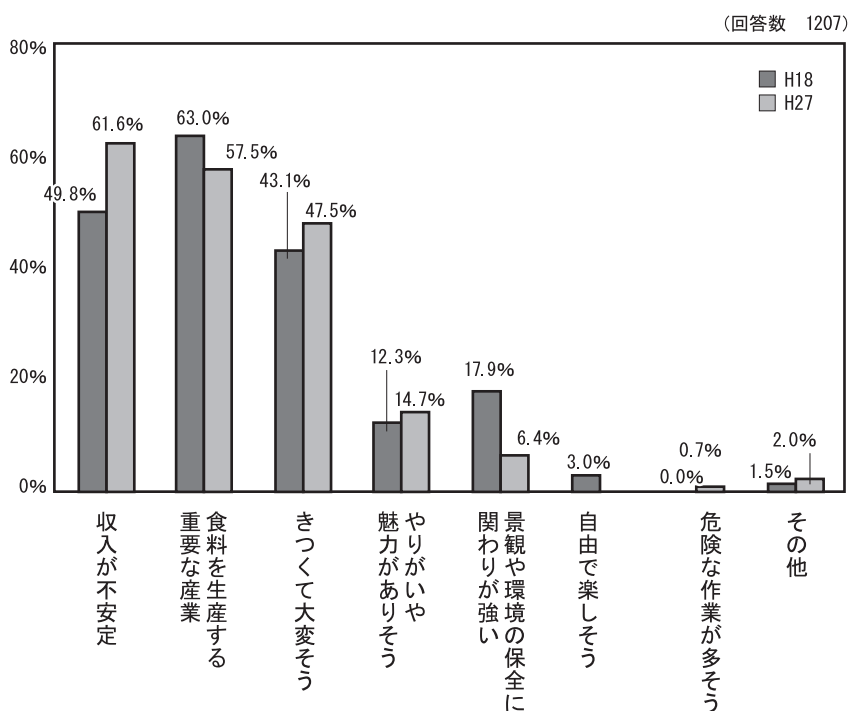
【大分市特産の農産物について】

「かぼす」「椎茸」が前回同様高くなっている。前回3番目の「おおば」が約4ポイント増加したが、今回5番目に、前回5番目の「ごぼう」が約17ポイント増加し、今回3番目に、前回6番目の「にら」が約14ポイント増加し、今回4番目となっている。



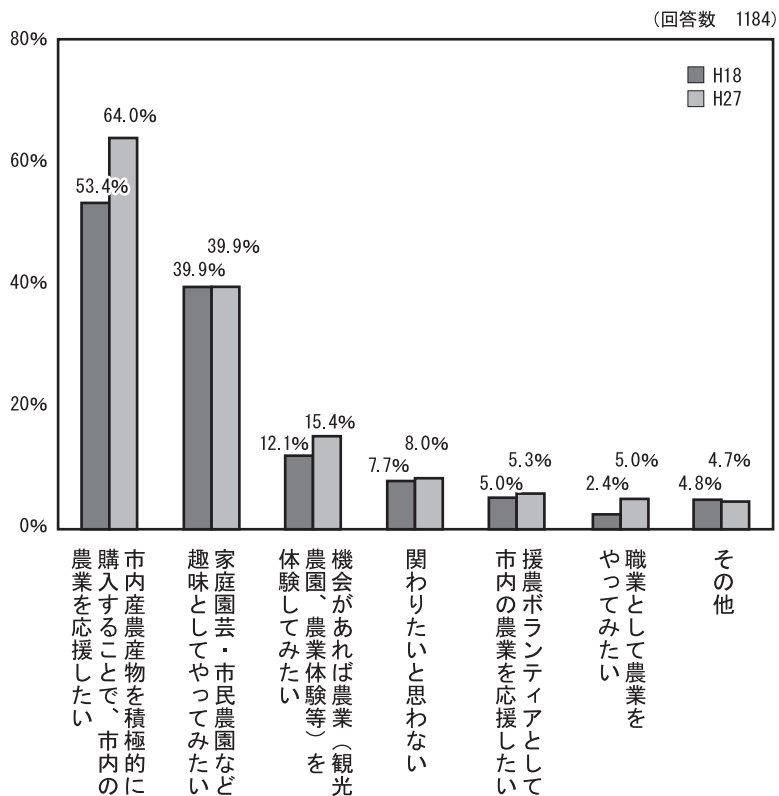
【農業に対するイメージ】

前回2番目の「収入が不安定」が約12ポイント増加し、今回1番目に、前回4番目の「景観や環境の保全に関わりが強い」が約12ポイント減少し今回5番目となっている。



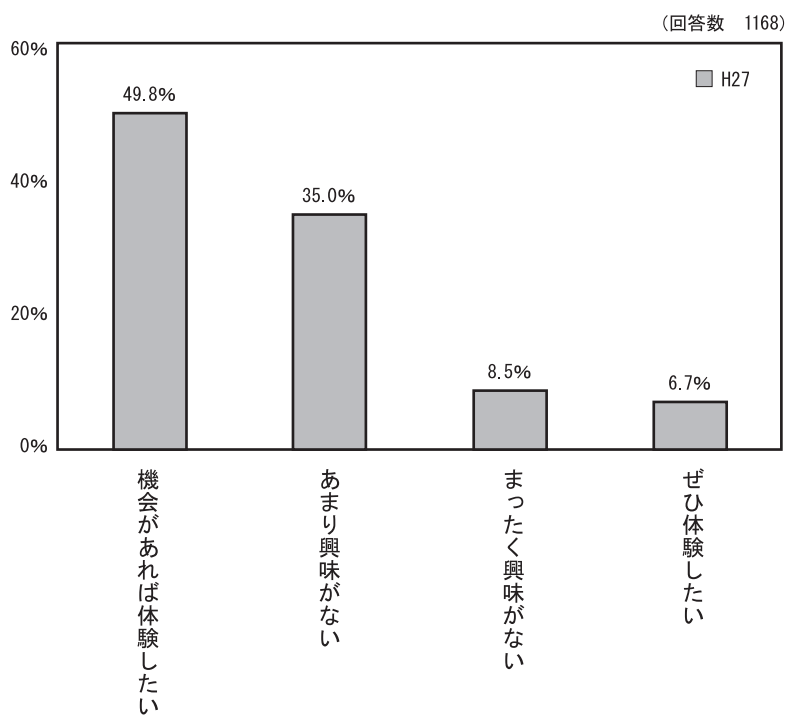
【農業との関わり方】

前回と比較して、「市内産農産物を積極的に購入することで、市内の農業を応援したい」が約11ポイント増加している。



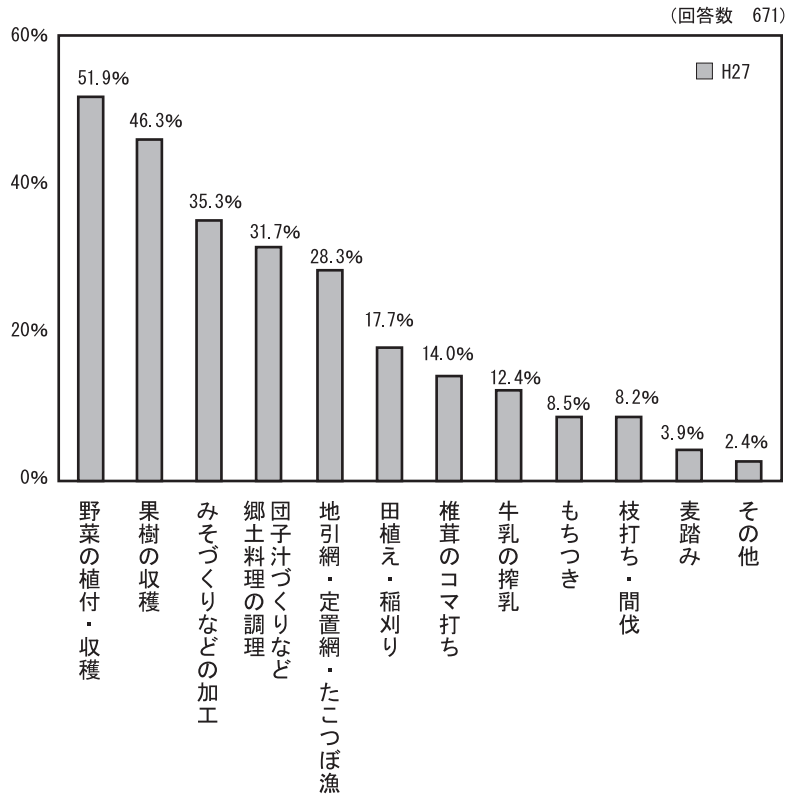
【農山漁村交流体験への興味】

約56%の人が「体験したい」と回答しており、約44%の人が「興味がない」と回答している。



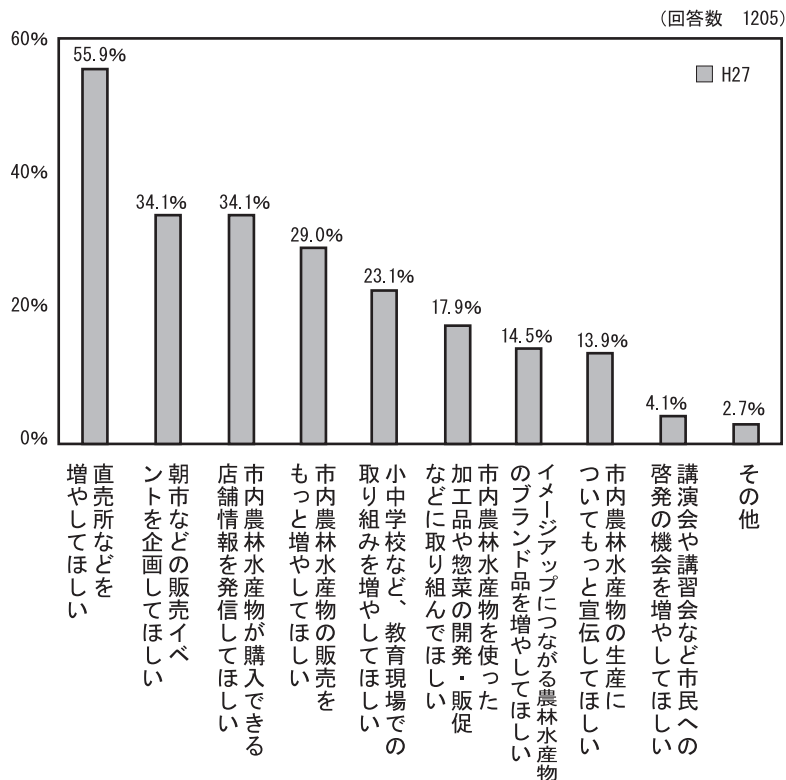
【やってみたい農山漁村交流体験】

約52%の人が「野菜の植付・収穫」、約46%の人が「果樹の収穫」、約35%の人が「みそづくりなどの加工」をやってみたいと回答している。



【地産地消の促進で期待すること】

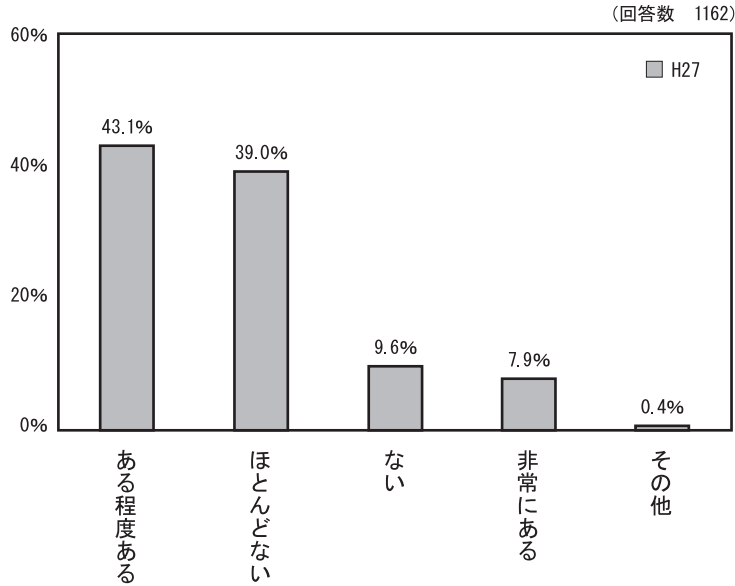
約56%の人が「直売所などを増やしてほしい」と回答しており、約34%の人が「朝市などの販売イベントを企画してほしい」又は「市内農林水産物が購入できる店舗情報を発信してほしい」と回答している。



林業のことについて

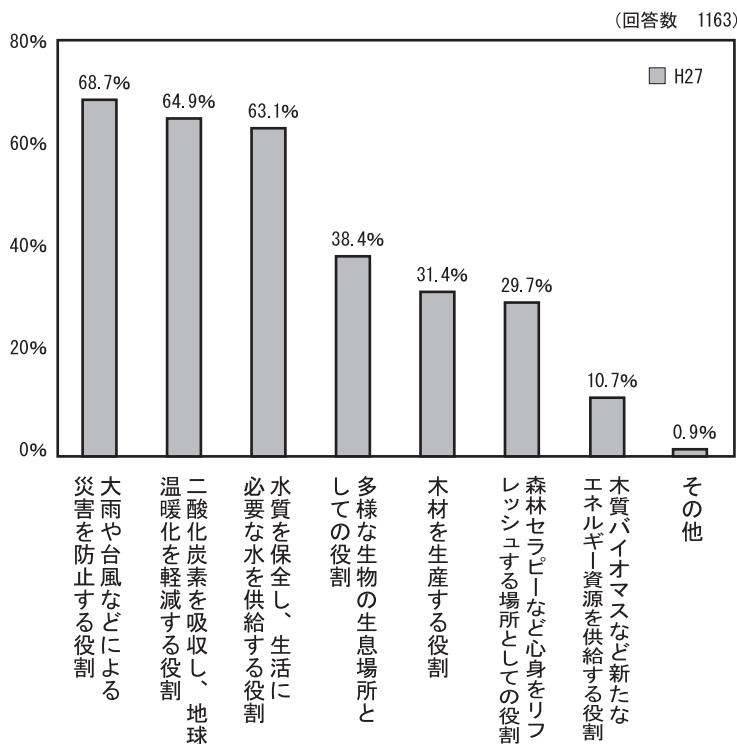
【森林に対する関心】

「非常にある」約8%、「ある程度ある」約43%と概ね半数の市民が森林に対して何らかの関心を持っている。



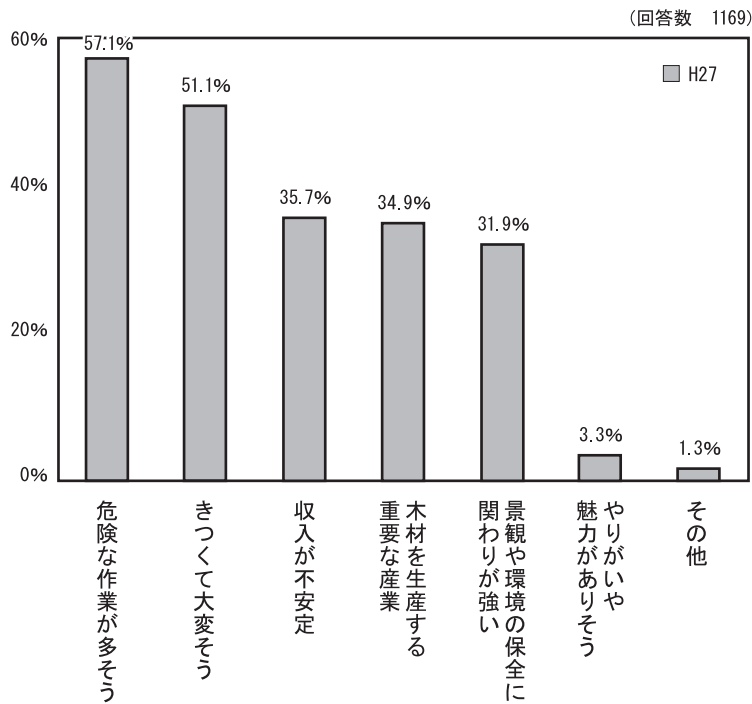
【森林に期待する役割】

「大雨や台風などによる災害を防止する役割」約69%、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を軽減する役割」約65%、「水質を保全し、生活に必要な水を供給する役割」約63%であるなど、森林の多面的機能に関する回答が多い。



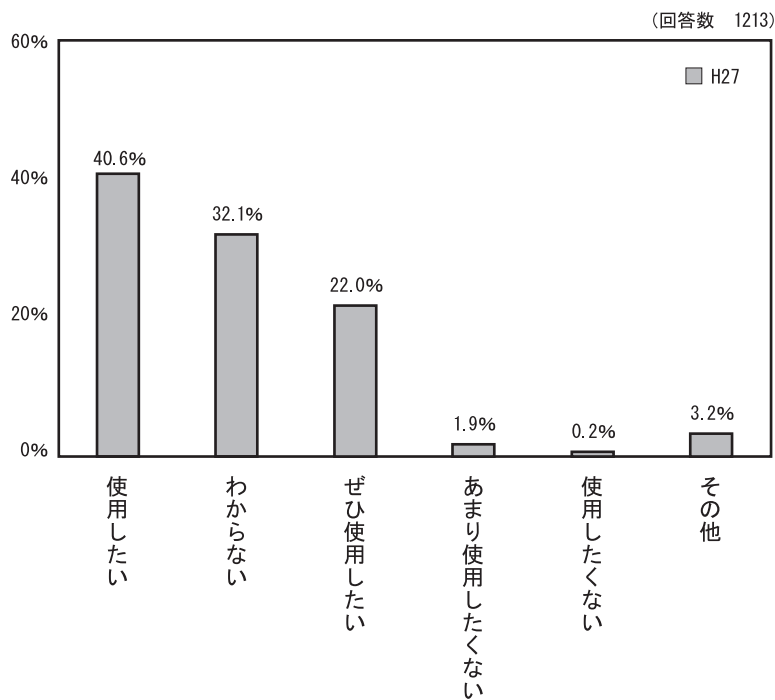
【林業に対するイメージ】

「危険な作業が多そう」約57%、「きつくて大変そう」約51%、「収入が不安定」約36%であるなどマイナスイメージが定着している。



【大分市産の木製品や住宅用建材の使用について】

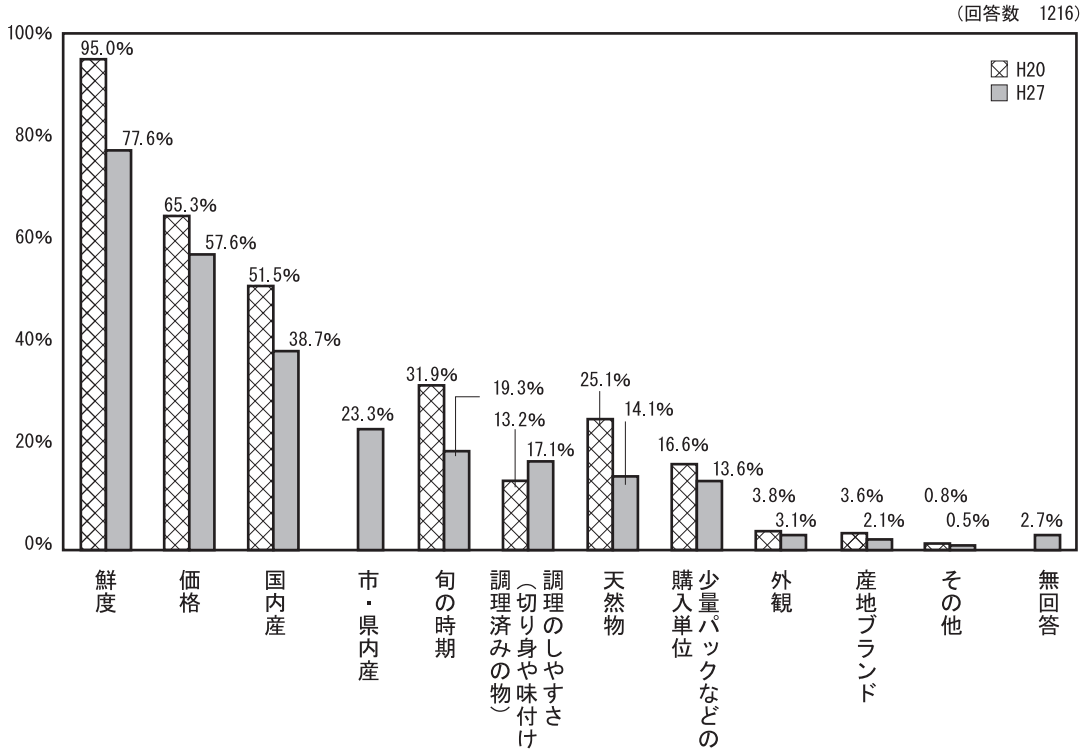
「ぜひ使用したい」約22%、「使用したい」約41%と6割以上の方が大分市産木材等についての関心を持っている。



水産業のことについて

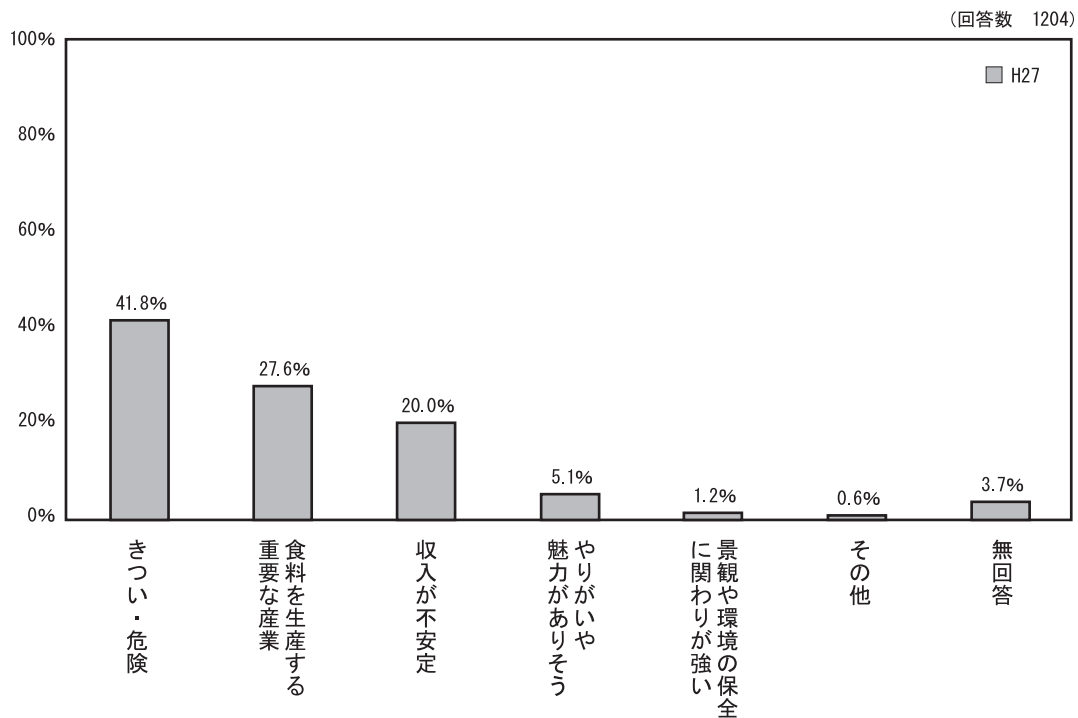
【水産物の購入で重視すること】

前回と比較して、「鮮度」が約17ポイント減少し、「国内産(市・県内産含む)」が約11ポイント、「調理のしやすさ(切り身や味付け調理済みの物)」が約4ポイント増加している。



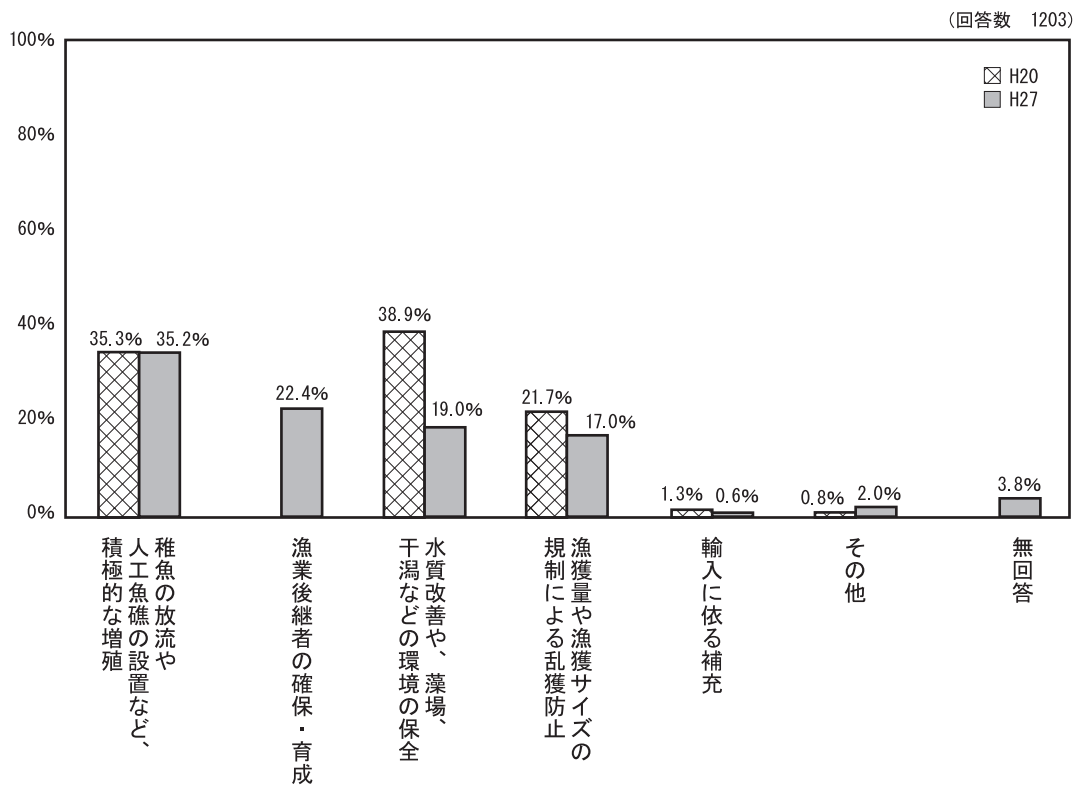
【水産業に対するイメージ】

「きつい・危険」が約42%と最も多く、続いて「食料を生産する重要な産業」が約28%である。



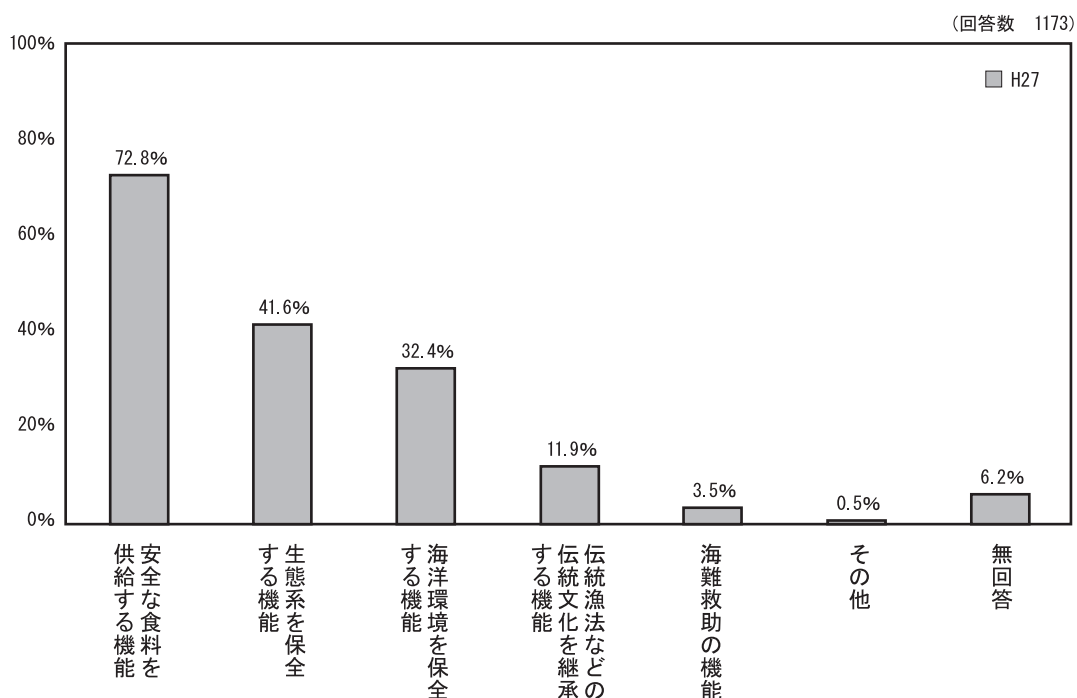
【漁獲量を増やすための取組】

今回新たに加えた「漁業後継者の確保・育成」が約22%で、「水質改善や、藻場、干潟などの環境の保全」が約20ポイント減少している。



【水産業が担う役割で重要なこと】

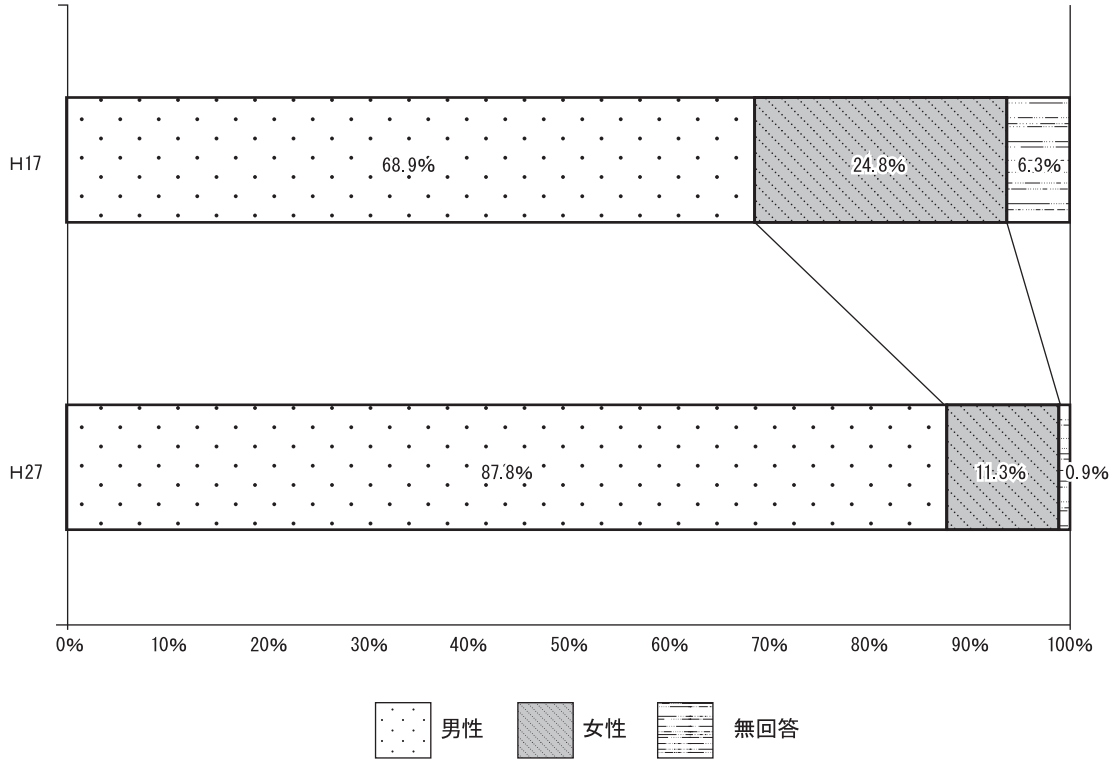
「安全な食料を供給する機能」が約73%と最も高く、続いて「生態系を保全する機能」が約42%である。



農家意向調査結果

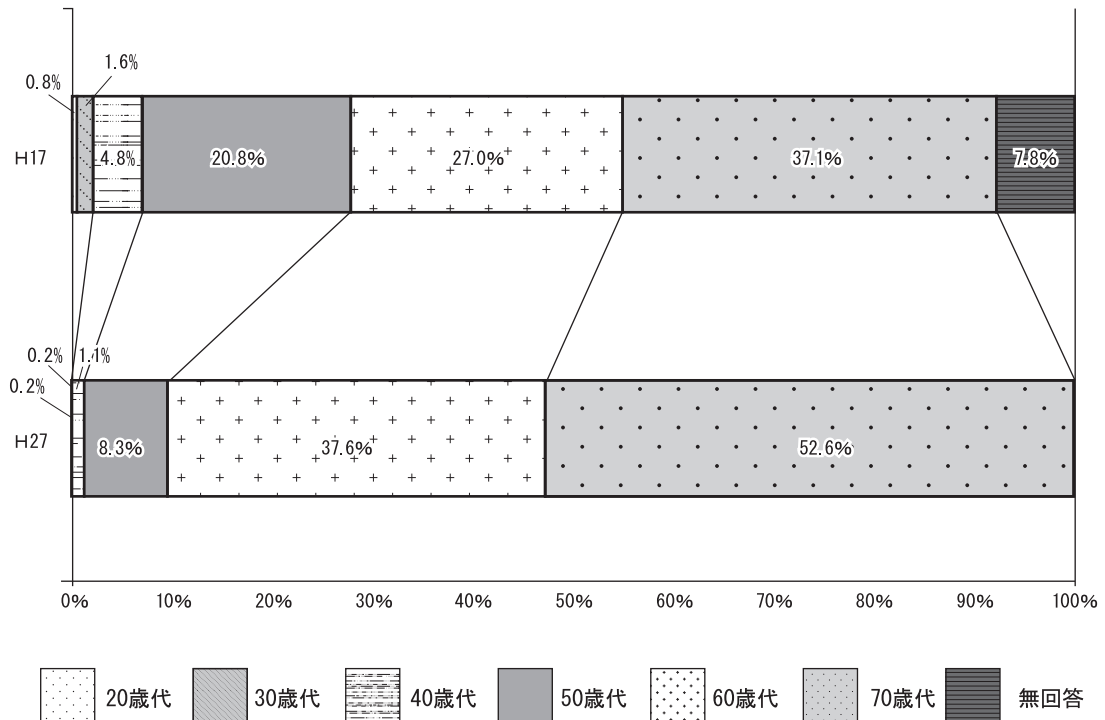
【性別】

前回と比較して、「男性」のポイントが約19ポイント増加し、「女性」のポイントが約14ポイント減少している。



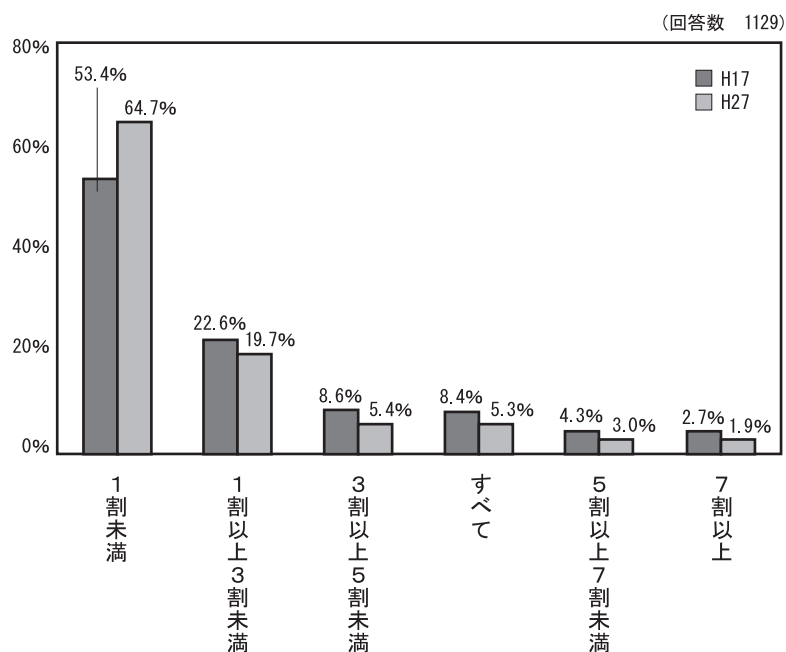
【年齢】

前回と比較して、「50歳代」以下のポイントが約18ポイント減少し、「60歳代」以上のポイントが約26ポイント増加している。



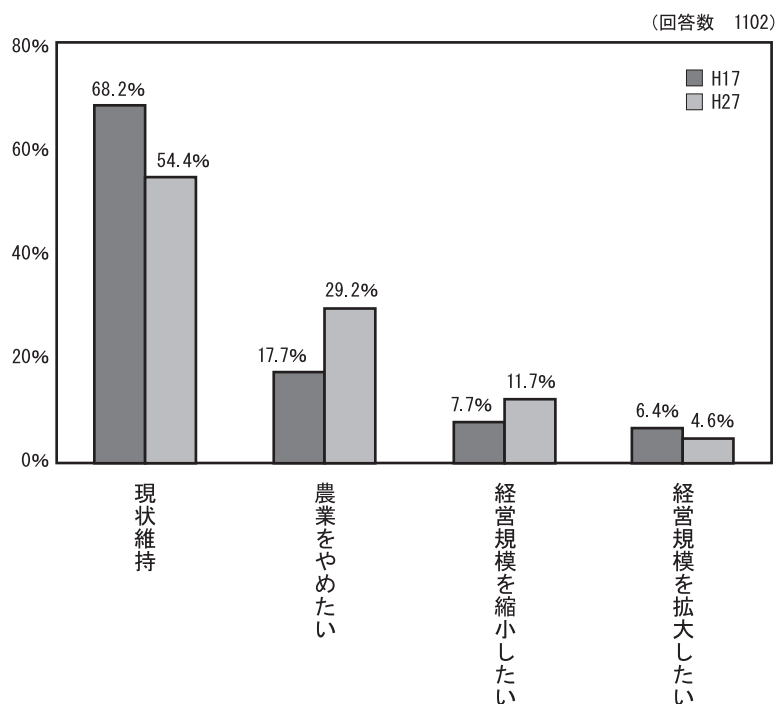
【農業収入の割合】

前回と比較して、「1割未満」のポイントが約11ポイント増加している。



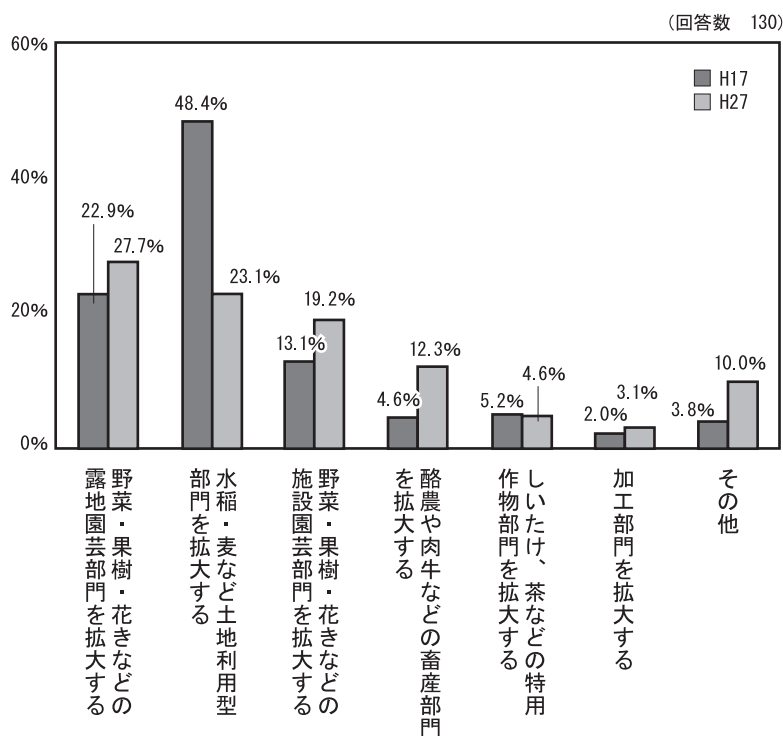
【5年後の農業経営】

前回と比較して、「現状維持」のポイントが約14ポイント減少し、「農業をやめたい」のポイントが約12ポイント増加している。



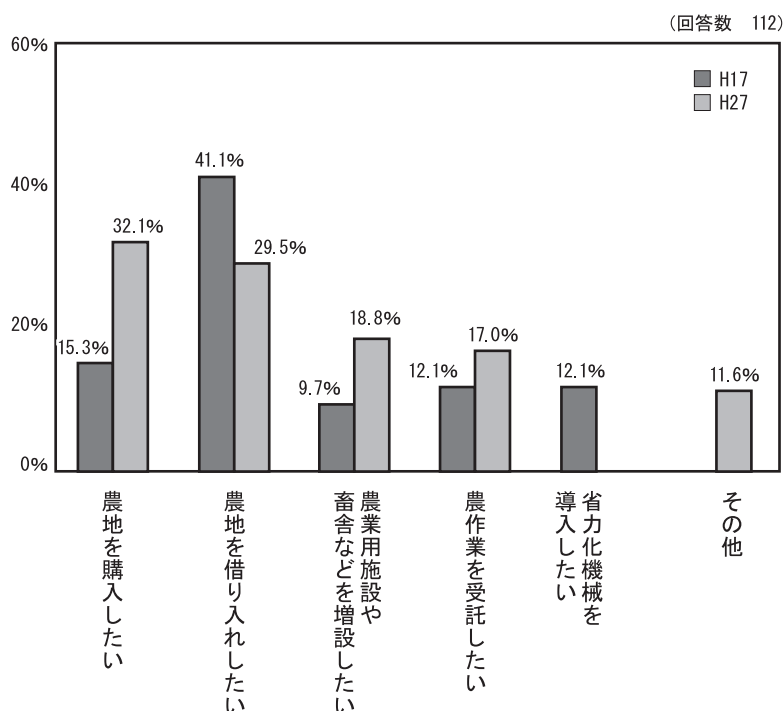
【経営規模拡大の作目】

前回もっとも高い「水稲・麦など土地利用型部門を拡大する」が約25ポイント減少し今回2番目となり、「野菜・果樹・花きなどの施設園芸部門を拡大する」が約6ポイント増加している。



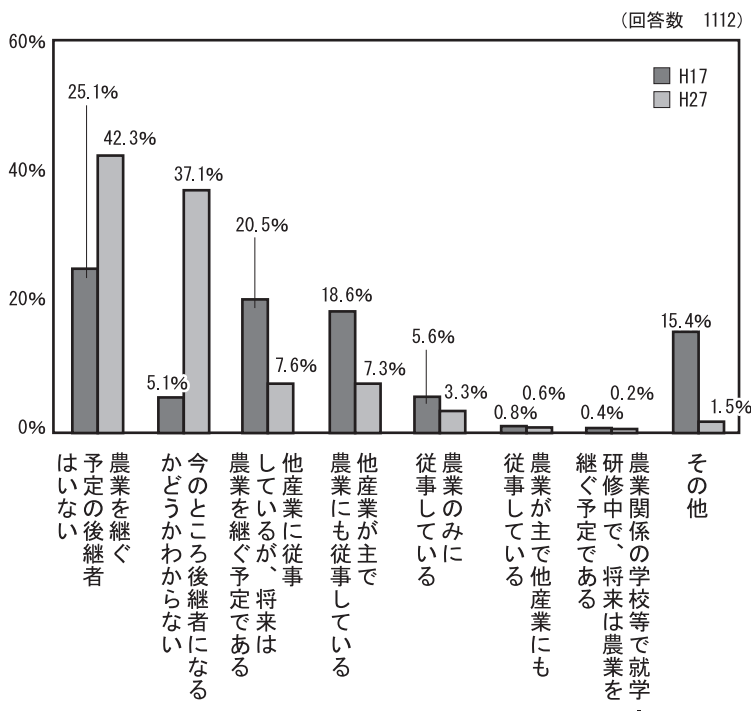
【経営規模拡大の方法】

前回もっとも高い「農地を借り入れたい」が、約12ポイント減少し、今回2番目となり、前回2番目の「農地を購入したい」が約17ポイント増加し、今回1番目となっている。また、前回5番目の「農業用施設や畜舎などを増設したい」が約9ポイント増加し、今回3番目となっている。



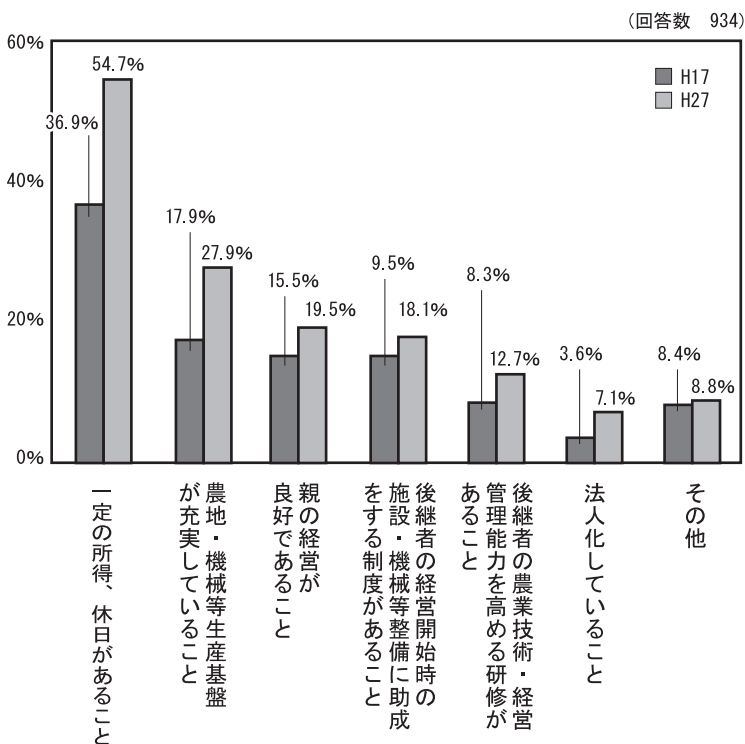
【後継者の現状】

前回もっとも高い「農業を継ぐ予定の後継者はいない」が約17ポイント増加しており、前回2番目の「他産業に従事しているが、将来は農業を継ぐ予定である」が約13ポイント減少し、今回3番目となっている。また前回3番目の「他産業が主で農業にも従事している」が約11ポイント減少し、4番目となっている。



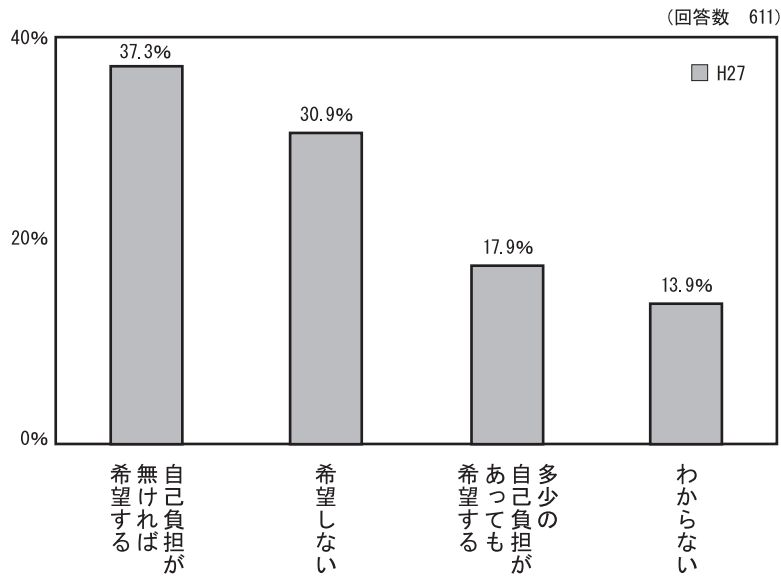
【後継者が残るために必要なこと】

前回と比較して、「一定の所得・休日があること」が約18ポイント増加し、「農地・機械等生産基盤が充実していること」が約10ポイント増加している。また、「後継者の経営開始時の施設・機械等整備に助成をやる制度があること」が約9ポイント増加している。



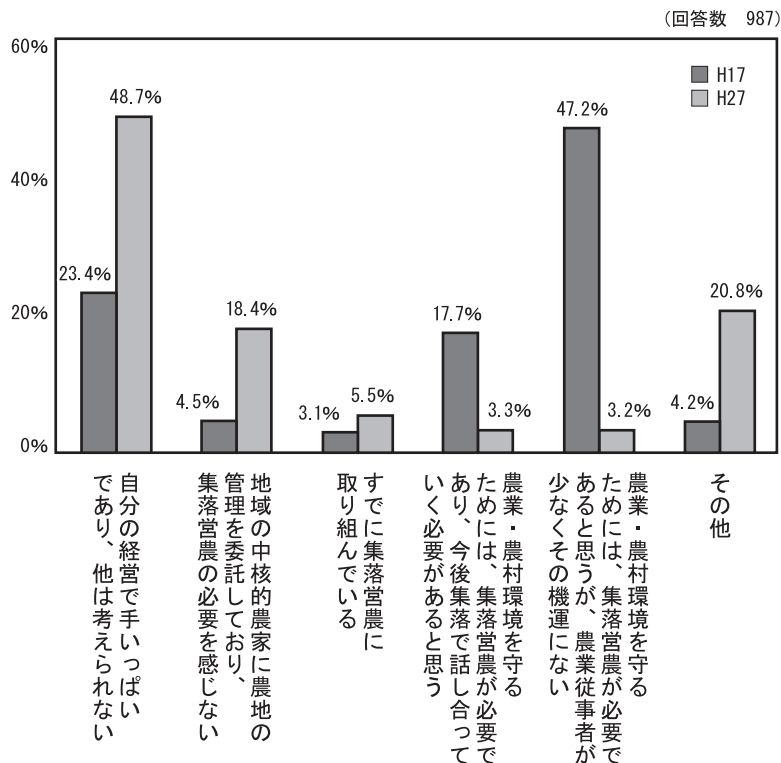
【ほ場整備の実施希望】

「希望する」「自己負担がなければ希望する」「多少の自己負担があっても希望する」と回答した人が約55%、「希望しない」と回答した人が約31%となっている。



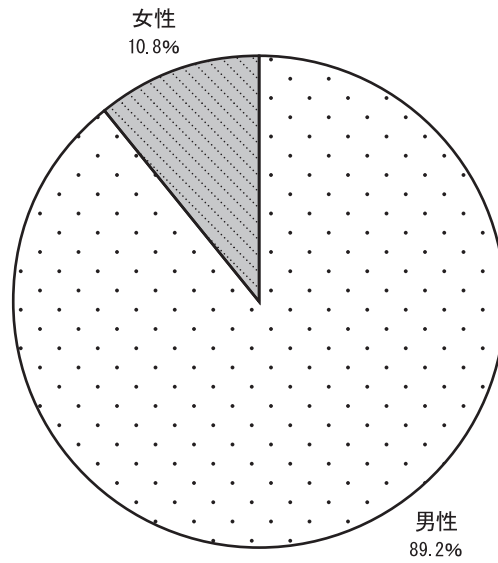
【集落営農について】

前回2番目の「自分の経営で手いっぱいであり、他は考えられない」が約25ポイント増加し今回1番目となっており、前回4番目の「地域の中核的農家に農地の管理を委託しており、集落営農の必要を感じない」が約14ポイント増加し、今回3番目となっている。また、前回1番目の「農業・農村環境を守るためには集落営農が必要であると思うが、農業従事者が少なくその機運がない」が約44ポイント減少し、今回6番目となっている。

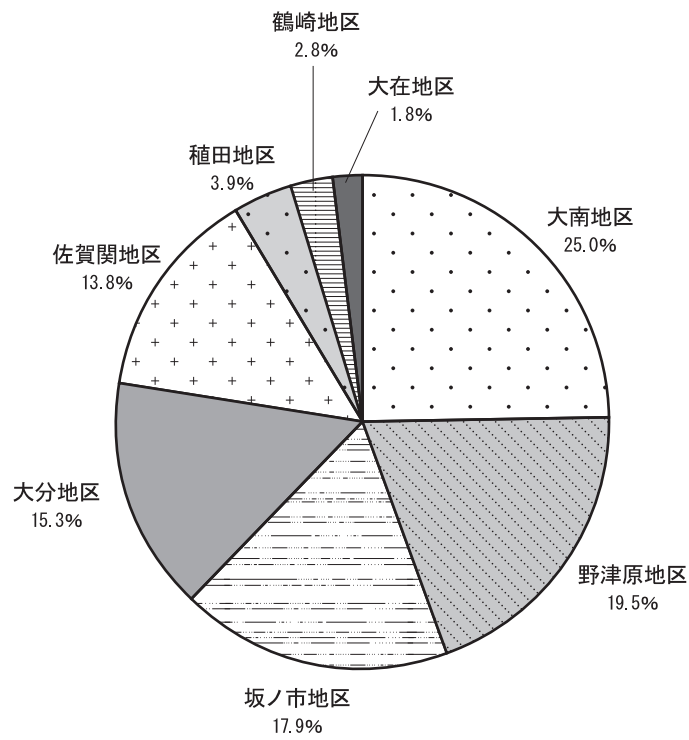


森林所有者意向調査結果

【性別】

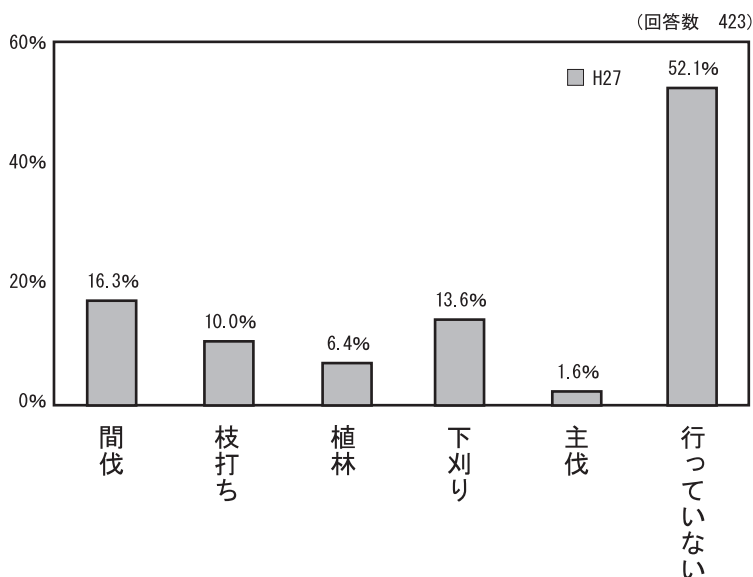


【地区】



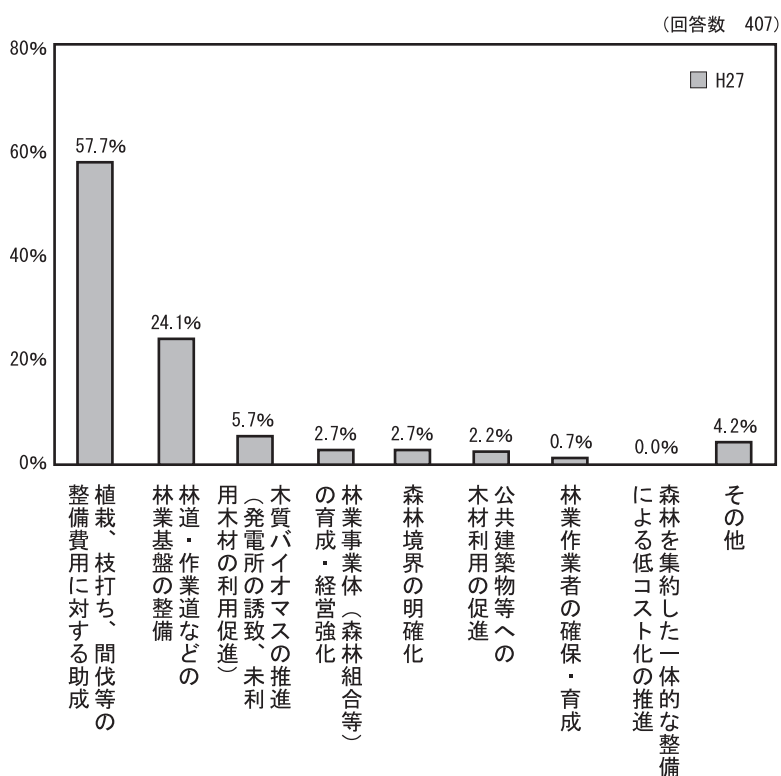
【過去10年間の間に行った施業】

間伐、下刈りなどの保育作業が多くなっている。



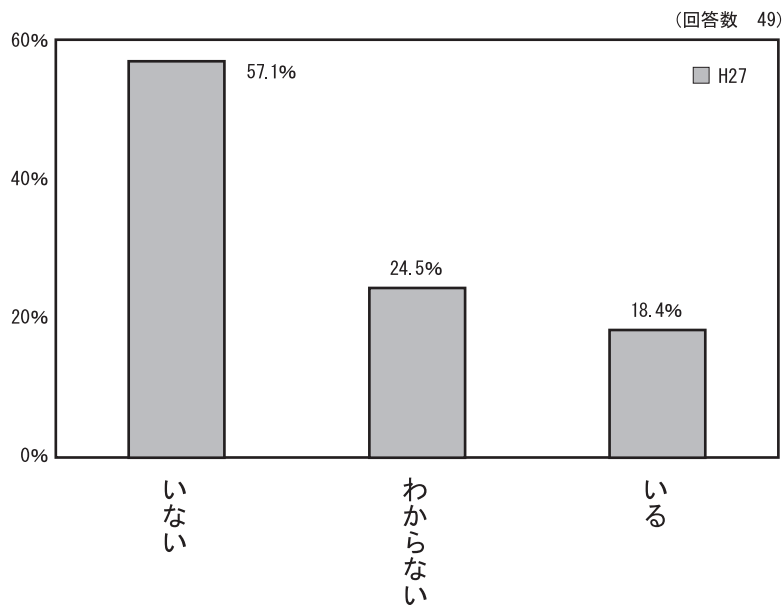
【森林整備を推進するために重視すべき点】

「植栽、枝打ち、間伐等の整備費用に対する助成」約58%、「林道・作業道などの林業基盤の整備」が約24%となっている。



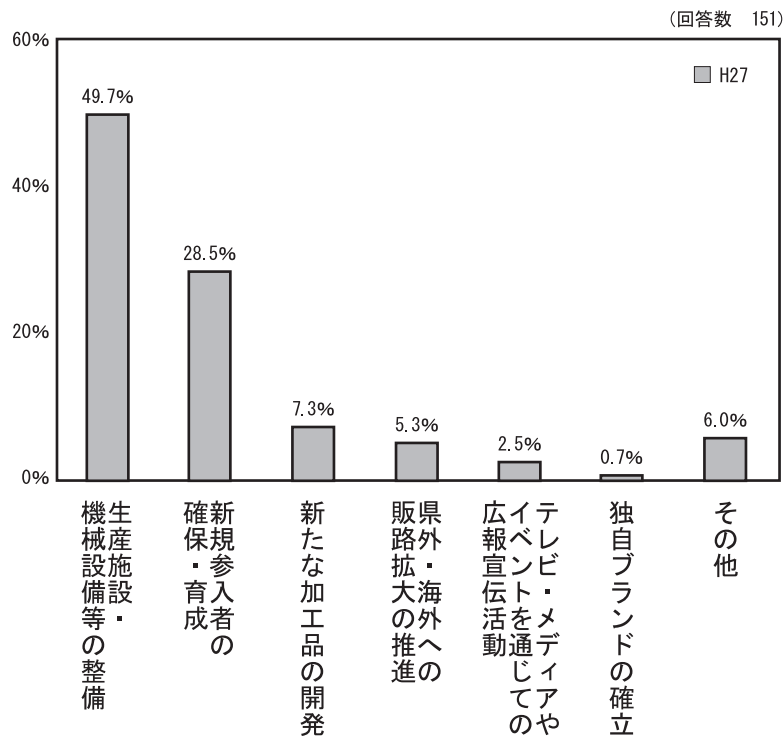
【椎茸生産の後継者について】

「後継者がいる」生産者は約18%にとどまっている。



【椎茸等特用林産物振興を図るために重視すべきこと】

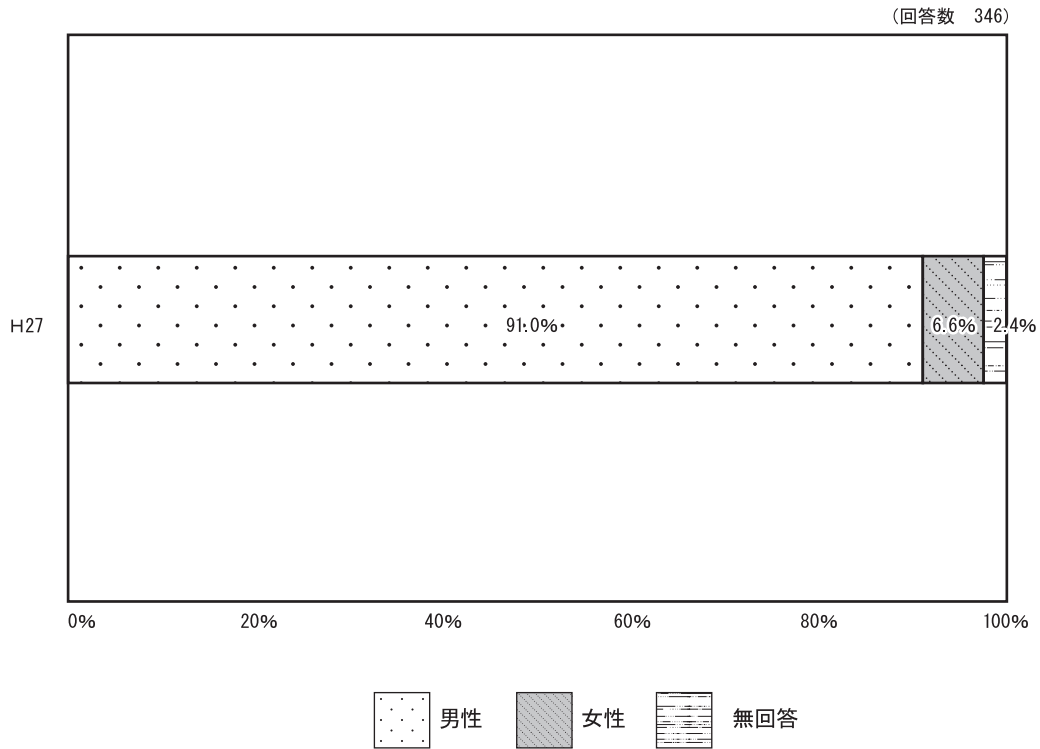
主なものとして、「新規参入者の確保・育成」が約29%、「生産施設・機械設備等の整備」が約50%となっている。



漁業者意向調査結果（海面）

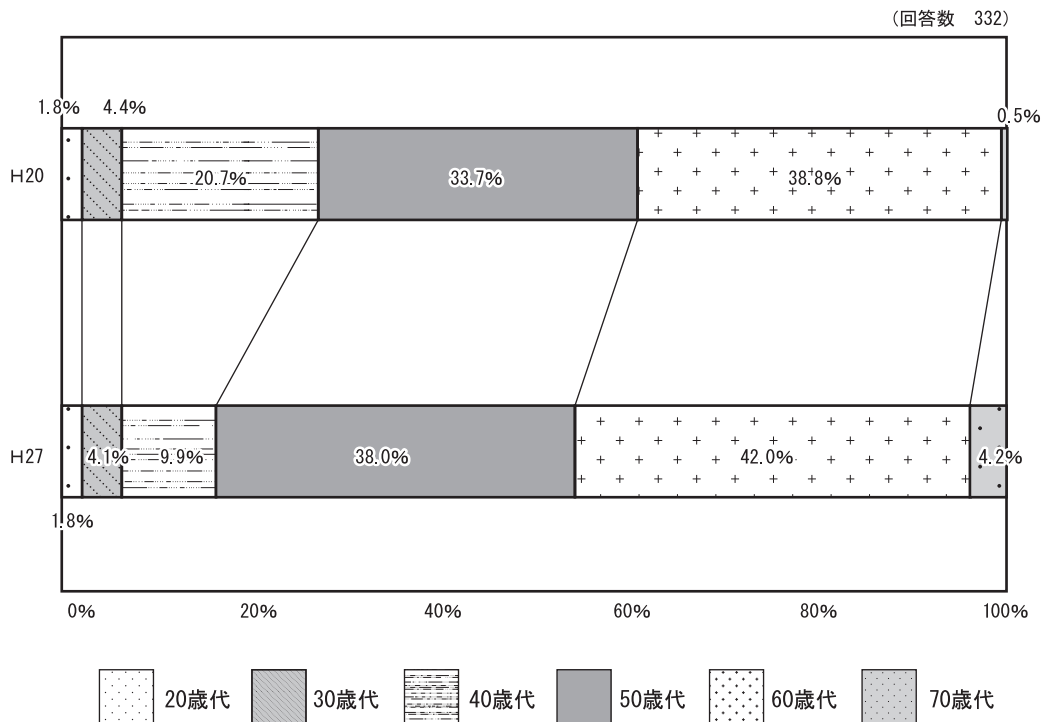
【性別】

「男性」が約91%、「女性」が約7%である。（前回調査なし）



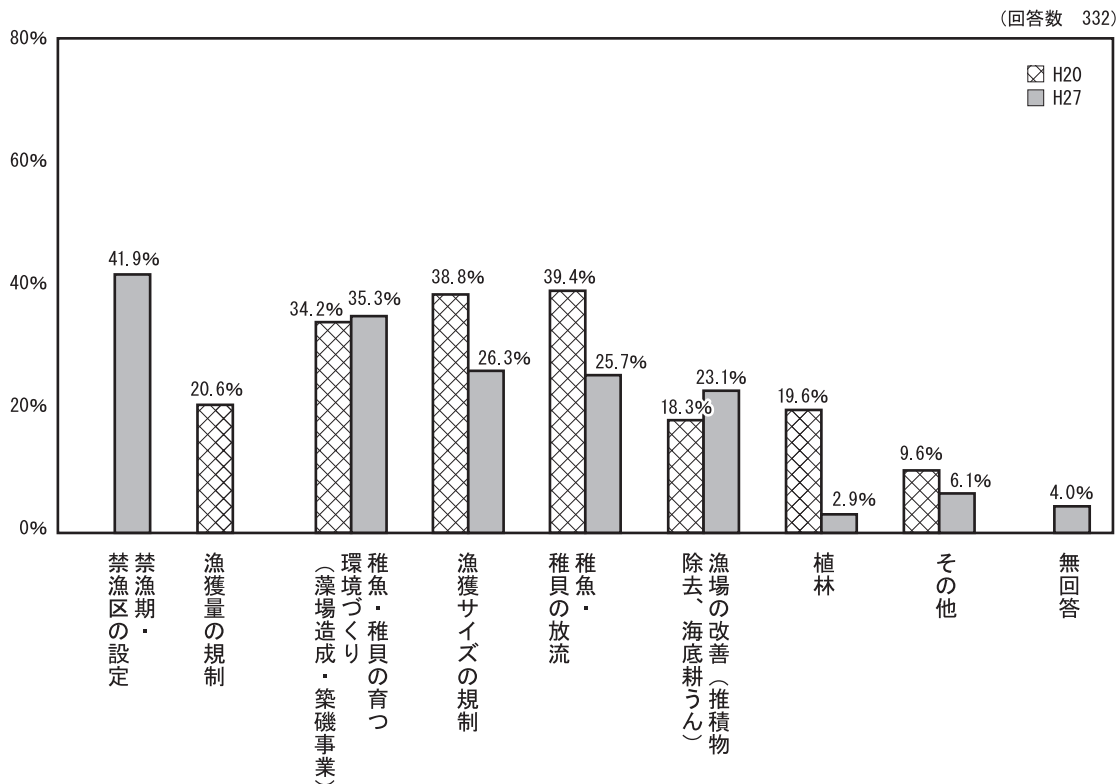
【年齢】

前回と比較して、「40歳代」が約11ポイント減少し、「60歳代」以上が約7ポイント増加している。



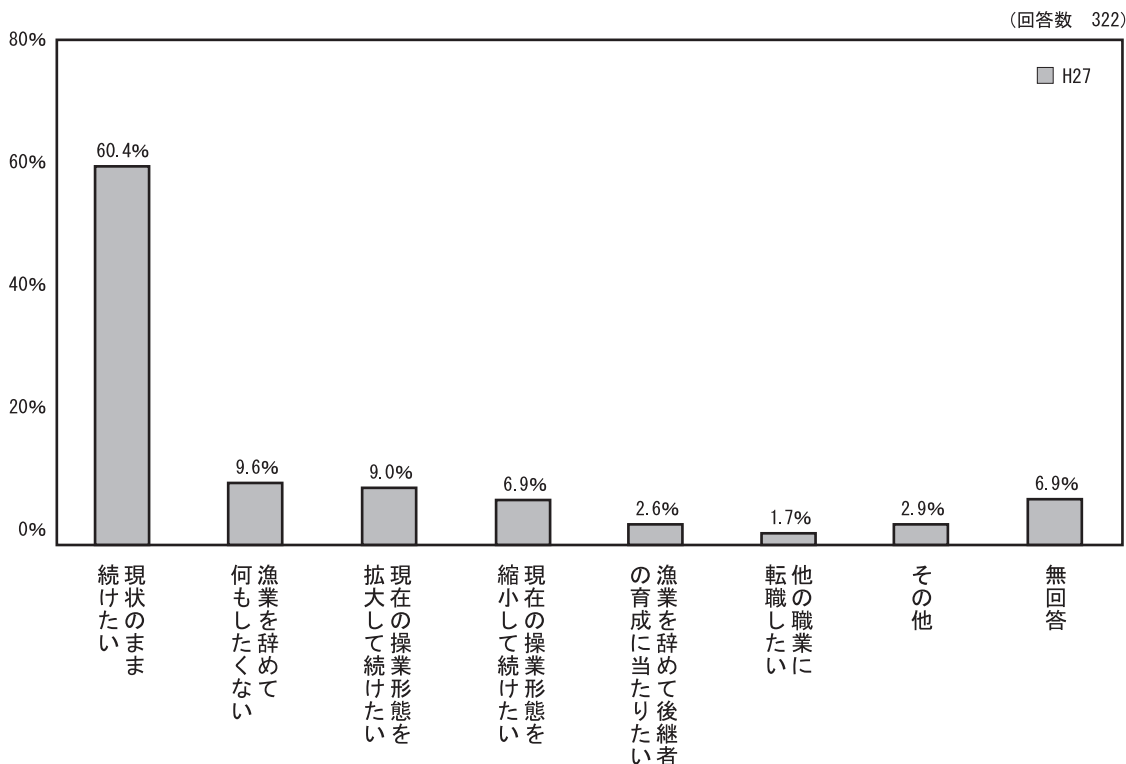
【水産資源を増やすための取組】

「禁漁期・禁漁区の設定」が約42%と最も多く、前回調査で類似項目に該当する「漁獲量の規制」から約21ポイント増加し、「漁獲サイズの規制」が約13ポイント、「稚魚・稚貝の放流」が約14ポイント減少している。



【5年後の漁業経営】

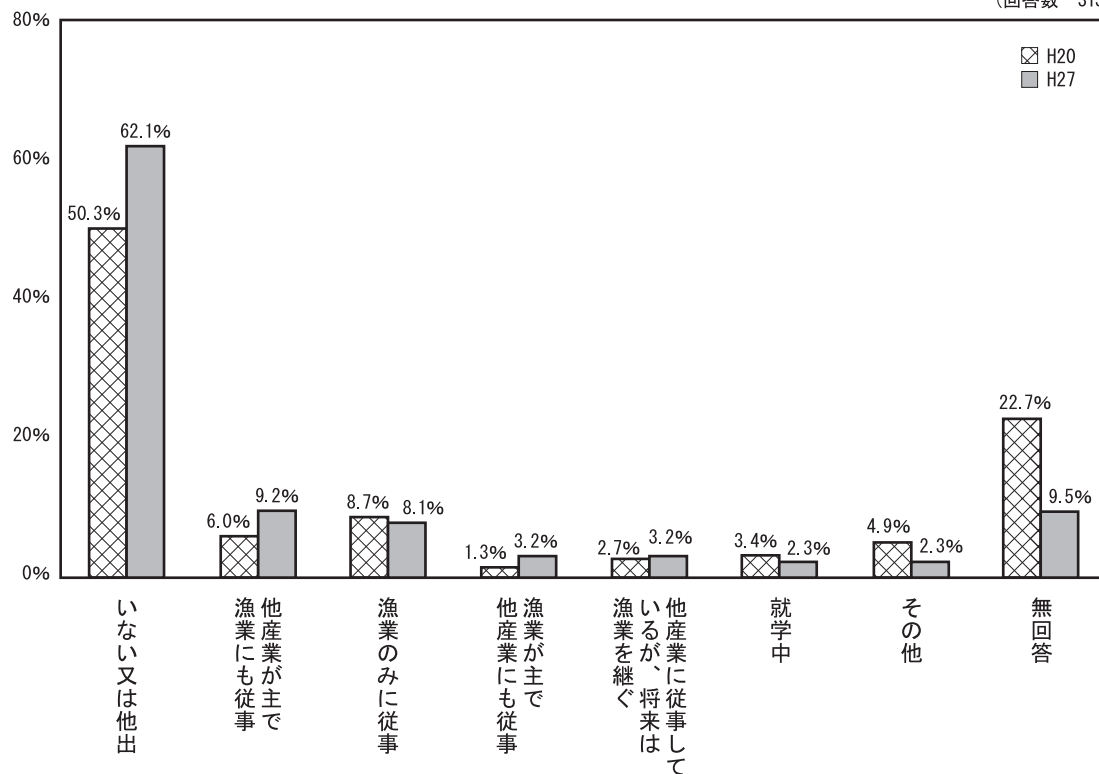
「現状のまま続けたい」が約60%である。(前回調査なし)



【後継者の状況】

前回と同様に「いない又は他出」が最も高く、約12ポイント増加している。

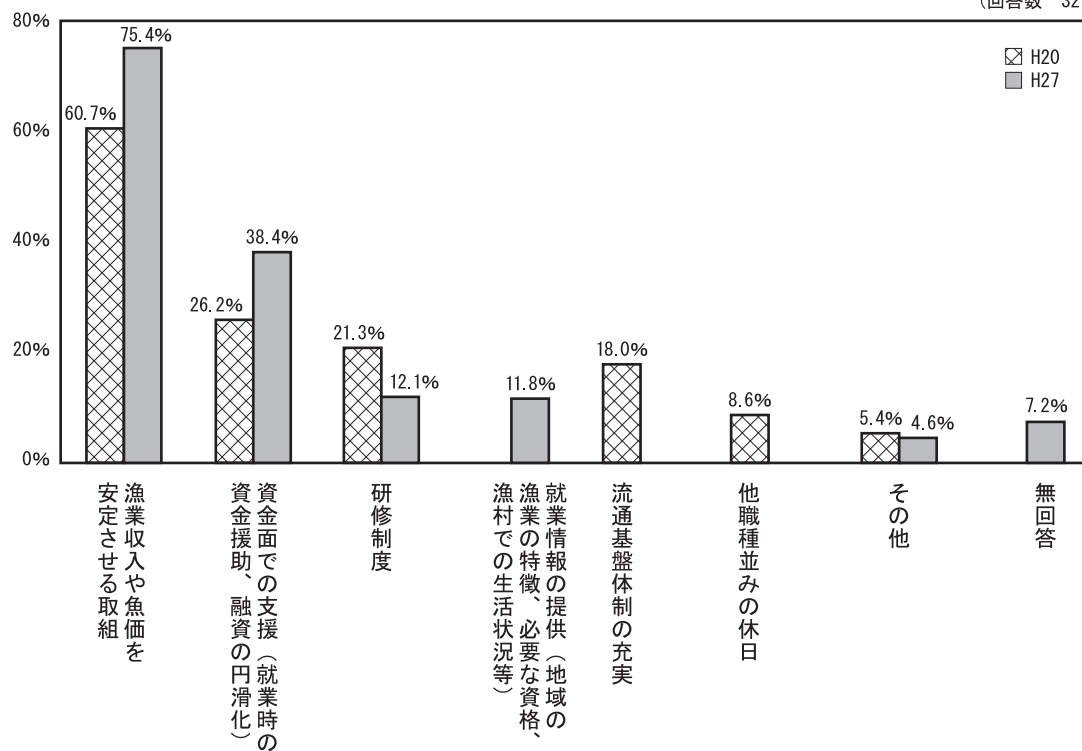
(回答数 313)



【後継者が残るために必要なこと】

一部の項目で前回調査と異なるものがあるが、前回とほぼ同様の傾向がみられる。「漁業収入や魚価を安定させる取組」が約15ポイント、「資金面での支援(就業時の資金援助、融資の円滑化)」が約12ポイント増加している。

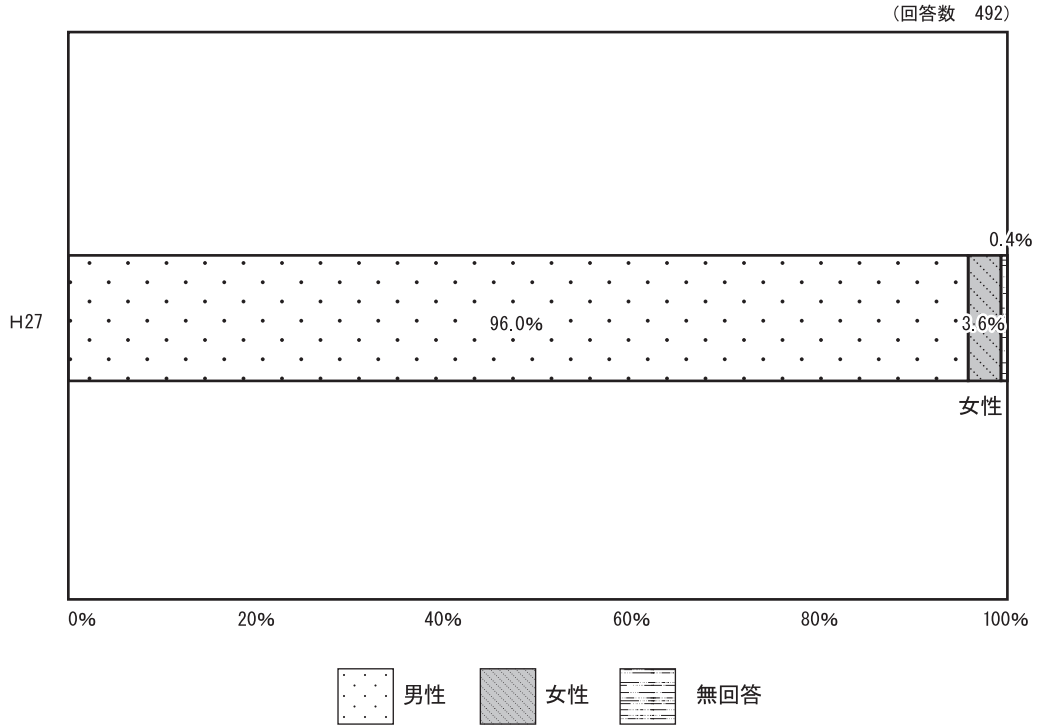
(回答数 321)



漁業者意向調査結果（内水面）

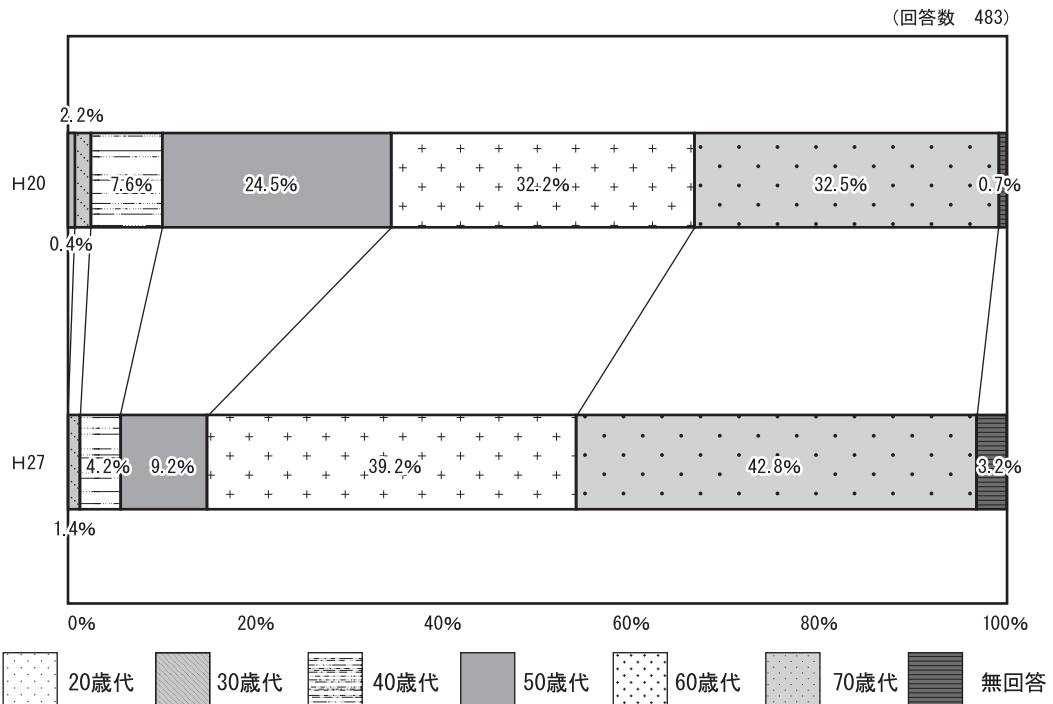
【性別】

「男性」が約96%、「女性」が約4%である。（前回調査なし）



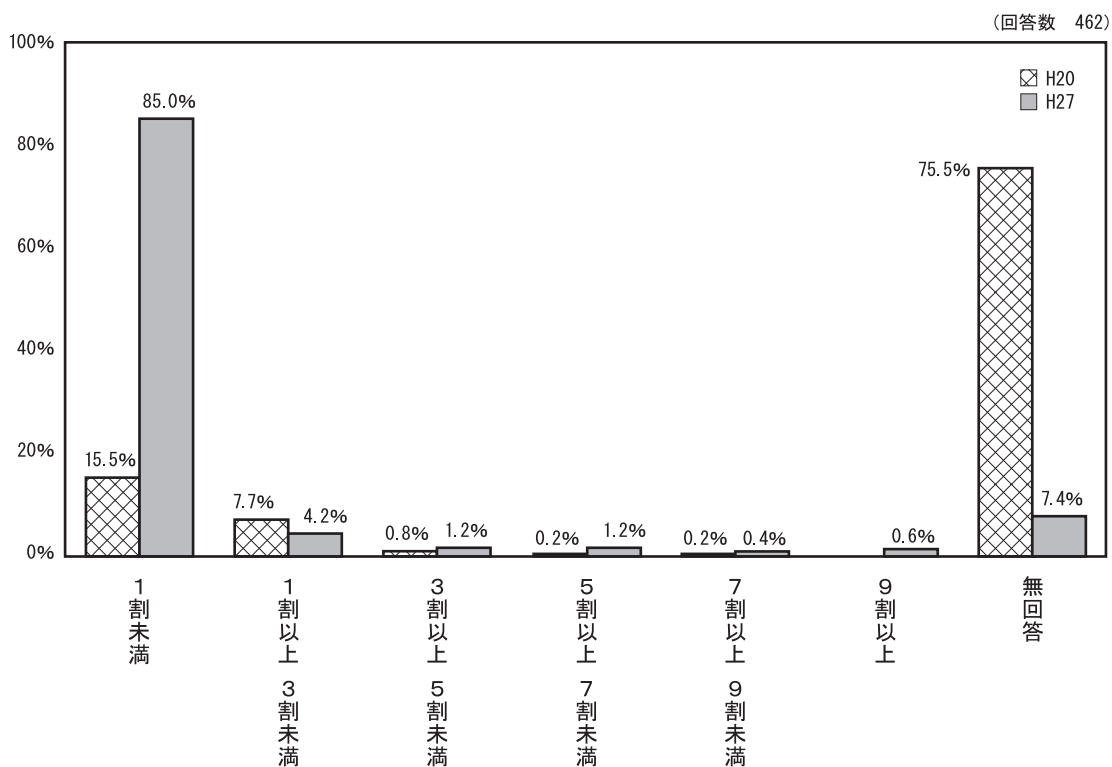
【年齢】

前回と比較して、「50歳代」が約15ポイント減少し、「60歳代」以上が約17ポイント増加している。



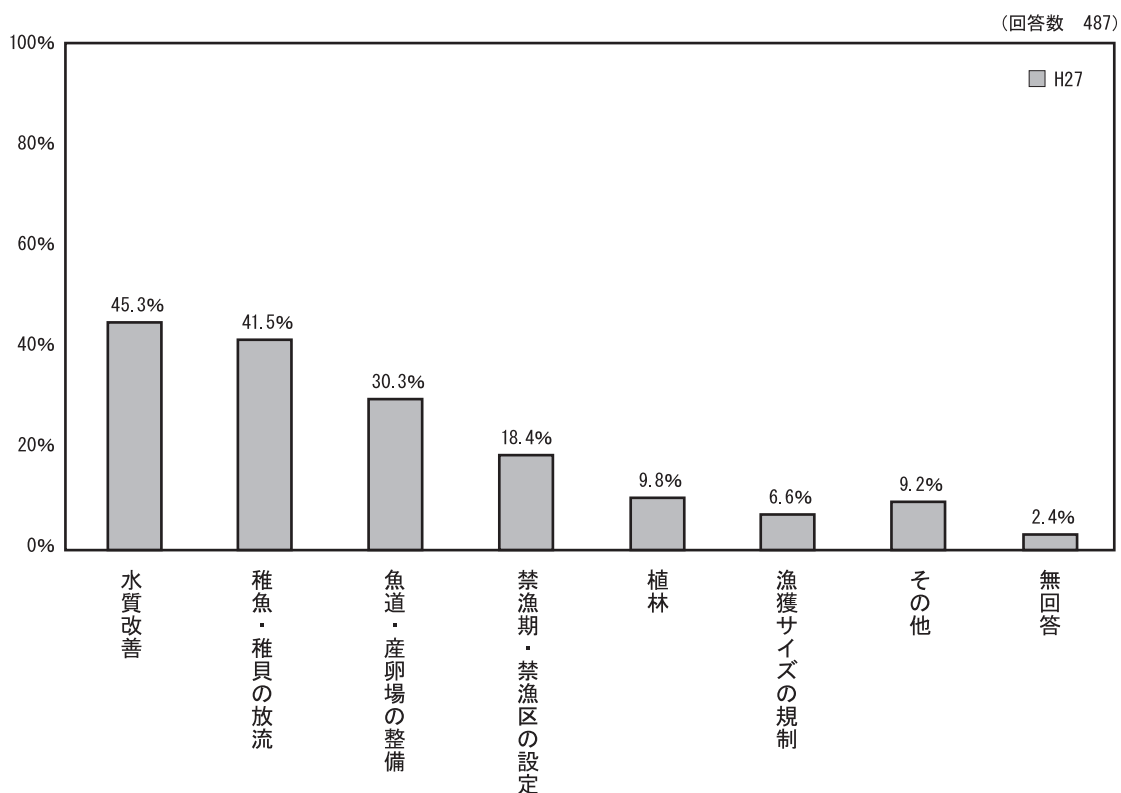
【漁業収入の割合】

「1割未満」が最も多く約85%である。



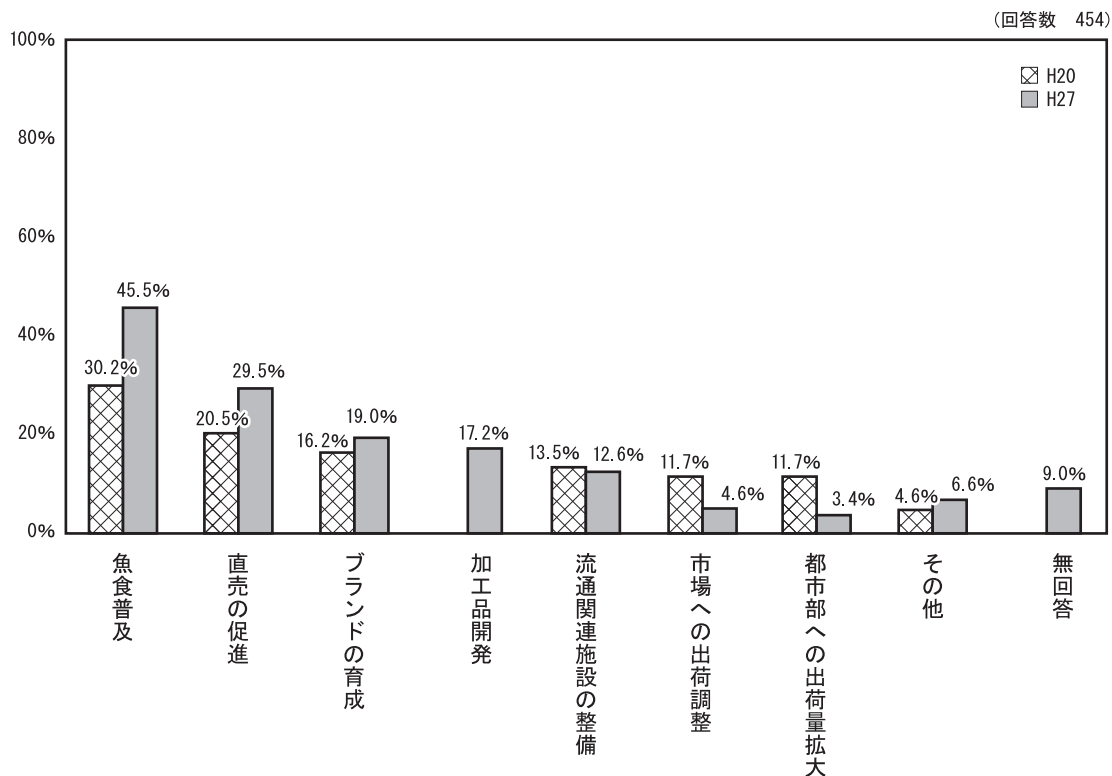
【水質資源を増やすための取組み】

「水質改善」が約45%と最も多く、続いて「稚魚・稚貝の放流」が約42%である。



【魚価向上のための取組】

前回と比較して、「魚食普及」が約15ポイント、「直売の促進」が約9ポイント増加し、「都市部への出荷量拡大」が約8ポイント減少している。また、今回新たに加えた「加工品開発」は約17%である。



【後継者は必要か】

前回と比較して、「必要」が約11ポイント減少し、新たに設けた「わからない」が約39%である。

